

地域の新たな防火、災害対応拠点として 根室市議会 高台移転した花咲港消防分遣所など視察

4月10日、根室市議会は高台移転した新しい花咲港消防分遣所、そしてエアートントなど新たな消防資機材等を視察しました。また12日には花咲港消防分遣所の落成記念式典が開催されました。

旧花咲港消防分遣所は標高6mの津波浸水区域内にあり、過去には津波被害を受けたこともあります。そのため市は分遣所を高台(標高45m)に新築、移転させました。2023年度から2年間の総事業費は2億9066万3000円。

延べ床面積は従来の約2倍に拡張され、2階部分は地震、津波災害の時に地域住民の一時避難所としても活用される予定です。

4月12日、「落成記念式典」が関係者や地域の方々の参列で開催されました。

石垣市長は式辞で「市民が安心して心豊かに過ごし、来るべき災害に備え安全を追求するまちづくりを体現する施設になることを願う」と述べました。

また花咲港町会連絡協議会の大塚会長は「地域の子も達が参加する少年消防クラブの活動拠点としても期待。防火、防災、学びの場を通じて、子ども達が地域の安全を自分事としてとらえ将来にわたり地域を支える力となることを願う」と来賓の祝辞を述べました。



大・小のエアートントは連結して広い形の設営も可能に。大規模災害時に根室市から他地域に応援に行く場合や、逆に根室が被災した時に他地域から応援に入った消防隊の野営等に活用される。エアコンや暖房も設置できオールシーズンに対応している。



花咲港消防分遣所の2階の一時避難所には、最大33名を収容できる。施設では3日分の電力が賄える非常用発電機や、シャワー室、男女別のトイレを設置。またダンボールベッド、食料品の備蓄倉庫も備えている。

新しい大型複合遊具がオープン 道内有数の規模に 根室総合運動公園



4月11日、根室総合運動公園に昨年からの建設が進められていた大型複合遊具がオープン。初日は朝から親子連れが訪れ、また放課後には50、60人の子も達が賑やかに遊んでいました。



このほか4月10日の視察時は新たな資機材として大型エアートントや資機材を搬送する新しいトラック、それらを保管するため新たに建設した倉庫について説明を受けました。

ゴーグルをつけ地震や火災現場の状況を体験できる「VR防災訓練装置」も新規に導入されました。市消防によると、すでに市内女性防火クラブ等での研修が完了したので、今後は町会等市民の方にも利用して欲しいと呼びかけていました。



建物火災から避難するVR防災訓練を体験している様子

以前の大型複合遊具は20年経過して老朽化が進み、昨年度から市は工事費2億9150万円かけ更新(ゴムチップなど周辺工事費を含む)。全体的に海のような鮮やかな青色で、波のうねりを表現した大型のスライダーや納沙布の灯台をイメージしたタワー、道内初という巨大クジラクライマーなど旧遊具の約2倍の規模に。屋内遊戯施設わんぱくくに隣接し、屋内と屋外が連動して子ども達の遊びの場が広がるのが期待されます。

市は今後、身体に障がいのある子どもでもない子どもも身体能力の違いに関わらず一緒に楽しめる「インクルーシブ遊具」を建設する計画です。

市職員や工事を施行した事業者によると「道立公園や札幌など除けばこれほど大きな公園遊具は道内自治体でもほぼ聞いたことが無い」そうです。

この日、朝から子どもを連れて来たお母さんは「普段アパートで子ども達が騒がないように気を使っているの、元気に遊ぶ姿が見れて良かった。根室市がこんな素晴らしい場所を作ってくれてありがたい」と話しておられました。